

## 豪雨災害に関する意識についてのアンケート結果

県では、“どのような洪水にあっても人命が失われることを避ける”ことや“生活再建が困難となる被害を避ける”ことを目的に、流域治水対策として河川整備や維持管理などの「ながす」対策をはじめ、水害に「そなえる」対策、被害を最小限に「とどめる」対策を県民の皆さんと協働で取り組んでいます。

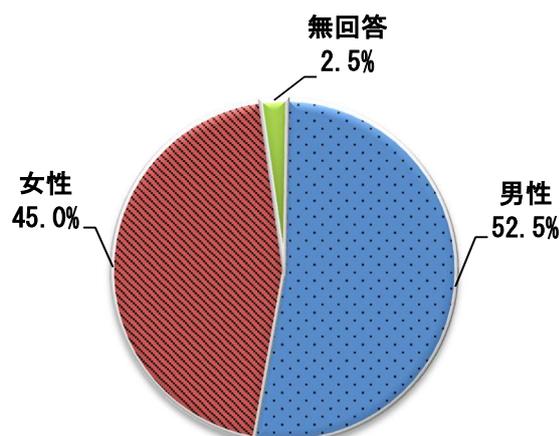
県民のみなさんの豪雨災害に関する認知度を把握し、今後の施策検討の参考とさせていただくため、アンケート調査を実施しました。

- ★ 調査時期：令和4年11月
- ★ 対象者：県政モニター 297人
- ★ 回答数：240人（回収率80.8%）
- ★ 担当課：土木交通部 流域政策局 流域治水政策室

(※四捨五入により割合の合計が100%にならない場合があります。)

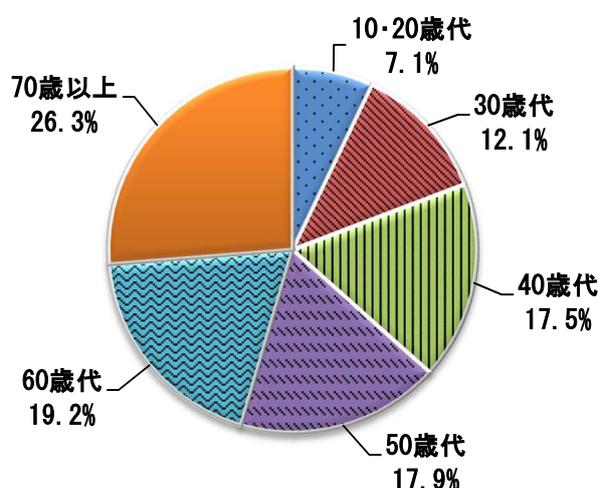
### ◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	126	52.5
女性	108	45.0
無回答	6	2.5
合計	240	100.0



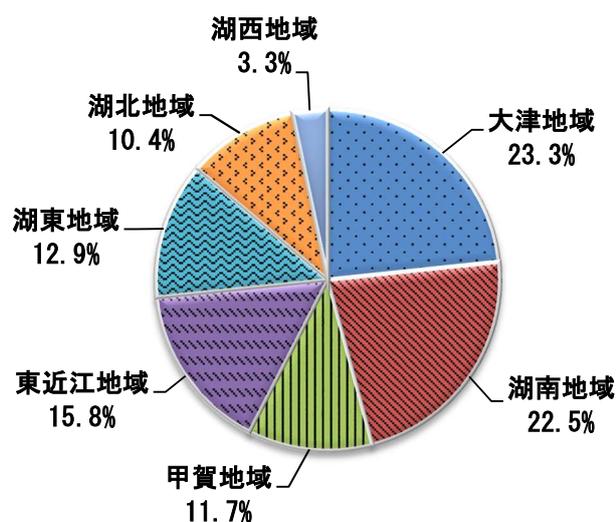
### ◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	17	7.1
30歳代	29	12.1
40歳代	42	17.5
50歳代	43	17.9
60歳代	46	19.2
70歳以上	63	26.3
合計	240	100.0



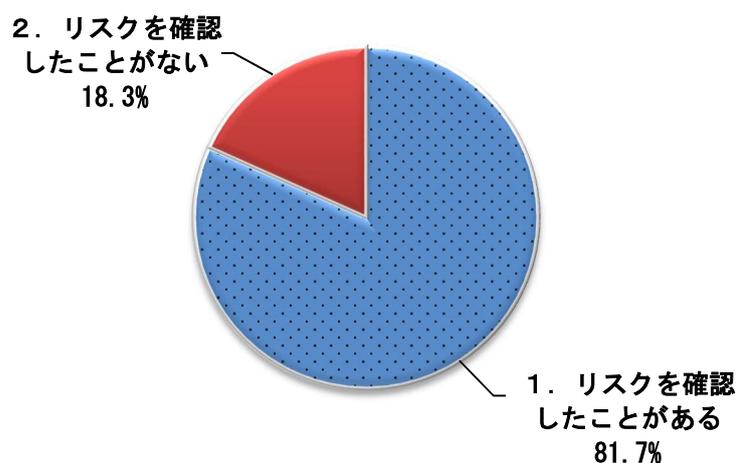
◆地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	56	23.3
湖南地域	54	22.5
甲賀地域	28	11.7
東近江地域	38	15.8
湖東地域	31	12.9
湖北地域	25	10.4
湖西地域	8	3.3
合計	240	100.0



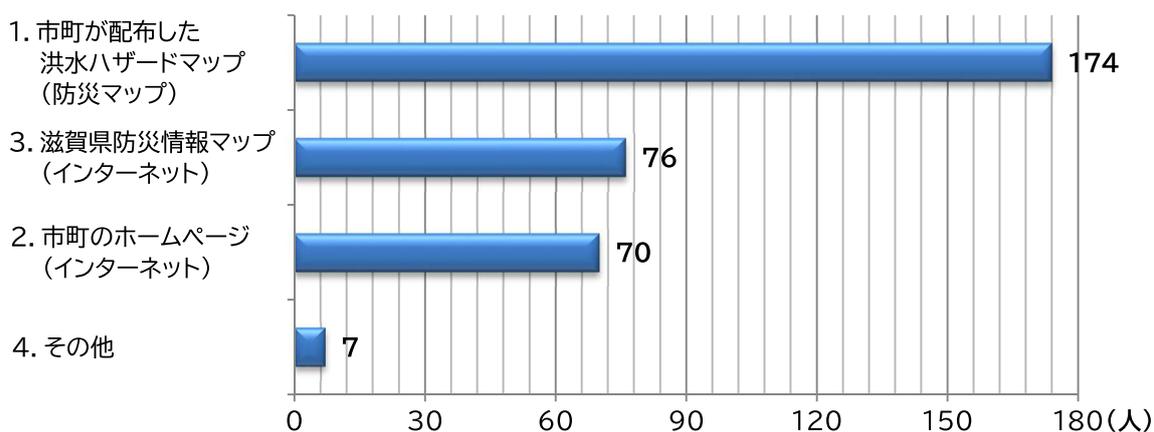
問1 近年、全国各地で水害や土砂災害が毎年発生しており、報道等により事前にリスクを確認するよう広報されていますが、あなたのご自宅のリスクを確認したことがありますか。(回答チェックは1つだけ n=240)

項目	人数(人)	割合(%)
1. リスクを確認したことがある	196	81.7
2. リスクを確認したことがない	44	18.3
合計	240	100.0



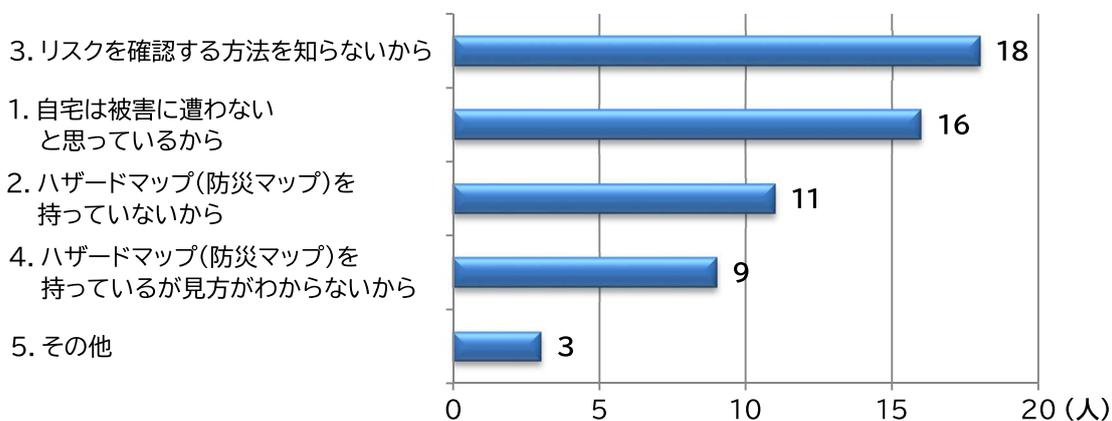
問2 問1で「1. リスクを確認したことがある」と回答された方にお聞きします。それはどのような方法で確認しましたか。(回答チェックはいくつでも n=196)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 市町が配布した洪水ハザードマップ(防災マップ)	174	88.8
2. 市町のホームページ(インターネット)	70	35.7
3. 滋賀県防災情報マップ(インターネット)	76	38.8
4. その他	7	3.6



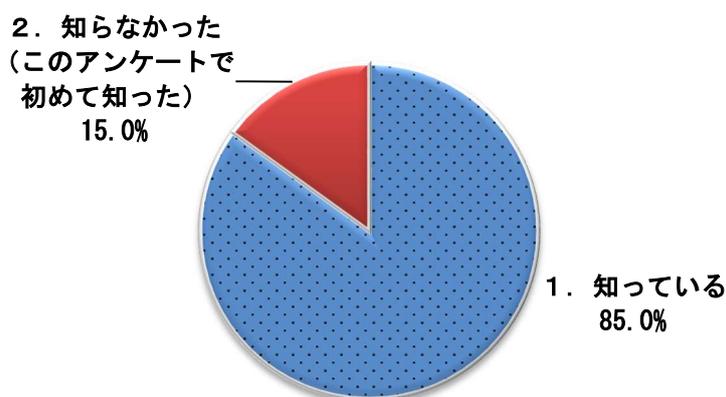
問3 問1で「2. リスクを確認したことがない」と回答された方にお聞きします。自宅のリスクを確認しない理由は何ですか。(回答チェックはいくつでも n=44)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 自宅は被害に遭わないと思っているから	16	36.4
2. ハザードマップ(防災マップ)を持っていないから	11	25.0
3. リスクを確認する方法を知らないから	18	40.9
4. ハザードマップ(防災マップ)を持っているが見方がわからないから	9	20.5
5. その他	3	6.8



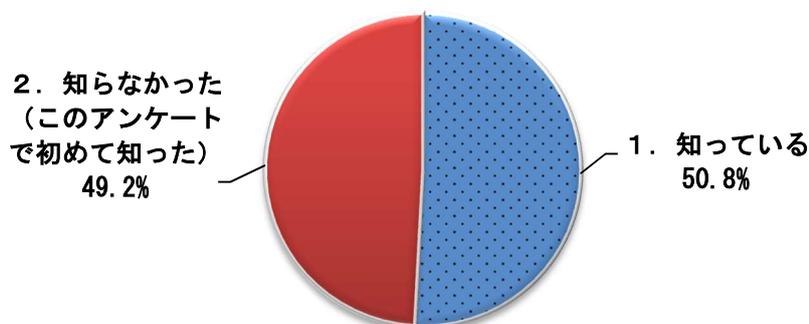
問4 浸水する原因は大きな河川の氾濫による浸水(外水氾濫)以外に、用排水路や小さな河川の氾濫により浸水(内水氾濫)する場合がありますか。  
 (回答チェックは1つだけ n=240)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っている	204	85.0
2. 知らなかった(このアンケートで初めて知った)	36	15.0
合計	240	100.0



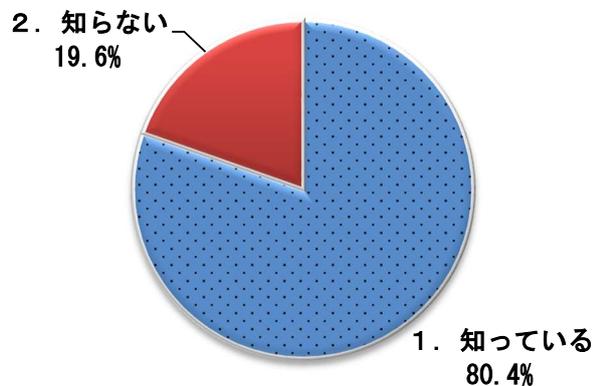
問5 滋賀県では、大きな河川の氾濫だけではなく身近な水路や小河川の氾濫も含めた「地先の安全度マップ」という水害リスク図を公表しています。あなたは、「地先の安全度マップ」を知っていますか。(回答チェックは1つだけ n=240)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っている	122	50.8
2. 知らなかった(このアンケートで初めて知った)	118	49.2
合計	240	100.0



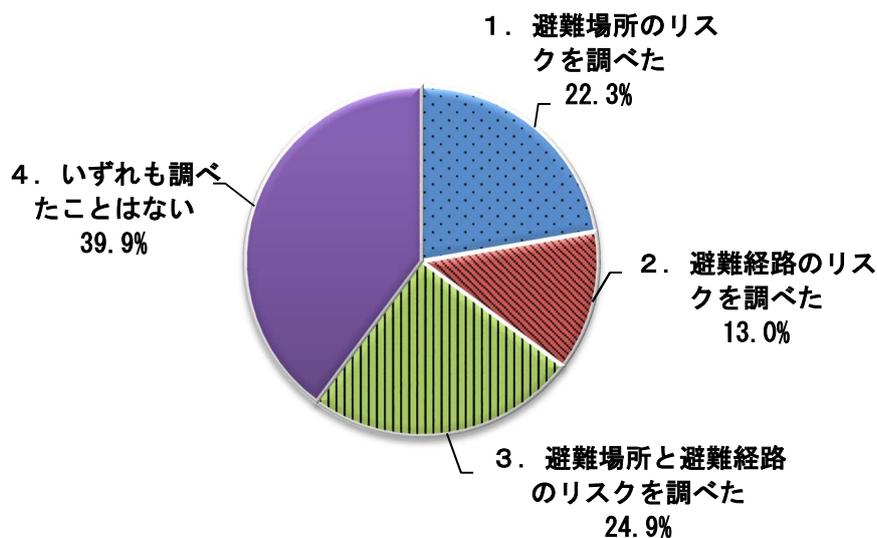
問6 あなたは、豪雨災害が発生した場合に市町が指定する避難場所を知っていますか。  
 (回答チェックは1つだけ n=240)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っている	193	80.4
2. 知らない	47	19.6
合計	240	100.0



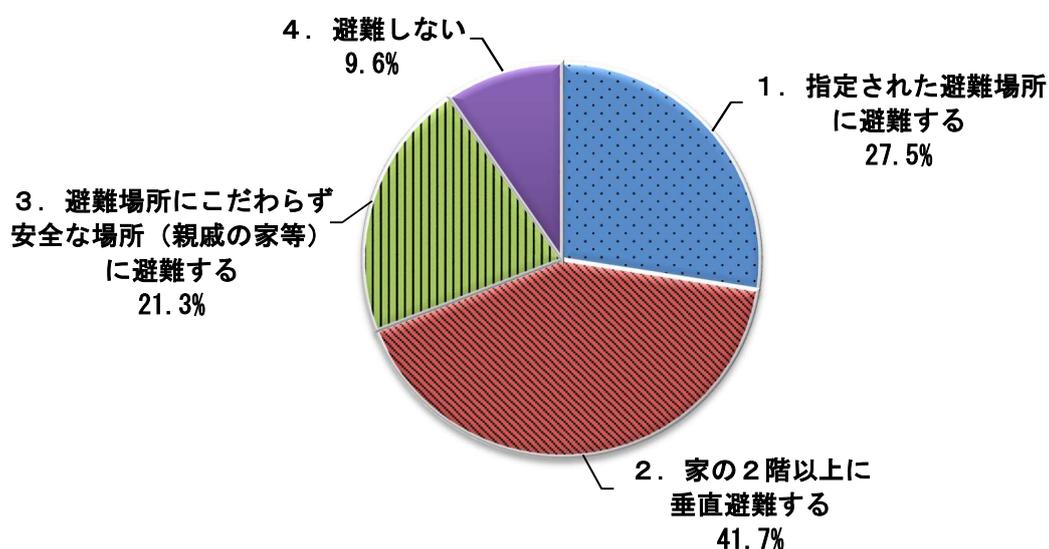
問7 問6で「1. 知っている」と回答された方にお聞きします。避難場所や避難場所へ行く経路のリスクを調べたことがありますか。(回答チェックは1つだけ n=193)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 避難場所のリスクを調べた	43	22.3
2. 避難経路のリスクを調べた	25	13.0
3. 避難場所と避難経路のリスクを調べた	48	24.9
4. いずれも調べたことはない	77	39.9
合計	193	100.0



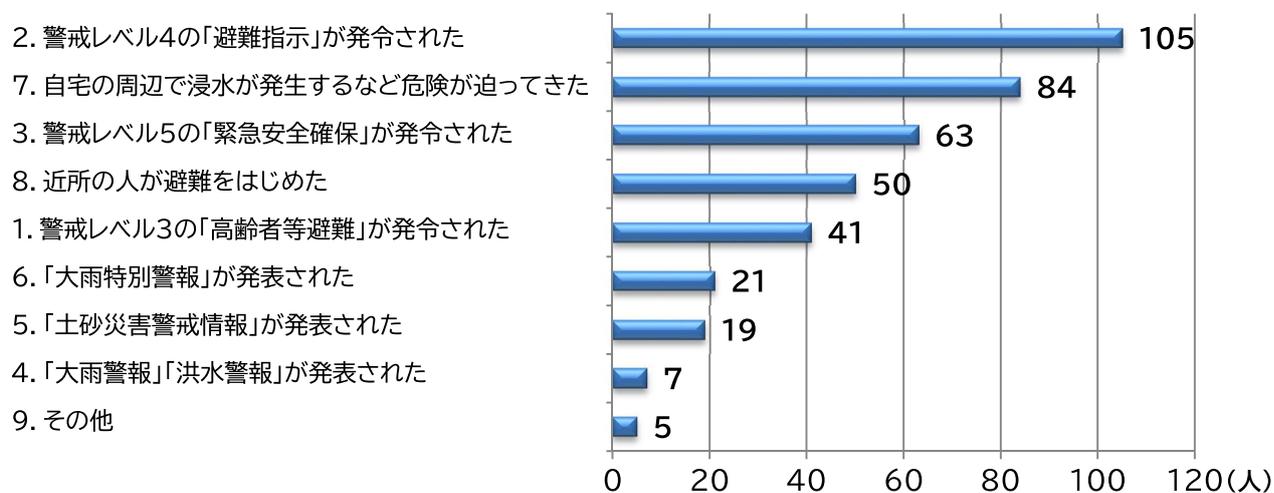
問8 豪雨により自分の周りで水害や土砂災害の危険性が高くなってきた場合、どのような行動をとると思いますか。この中からあなたのお考えに最も近いものを選んでください。(回答チェックは1つだけ n=240)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 指定された避難場所に避難する	66	27.5
2. 家の2階以上に垂直避難する	100	41.7
3. 避難場所にこだわらず安全な場所(親戚の家等)に避難する	51	21.3
4. 避難しない	23	9.6
合計	240	100.0



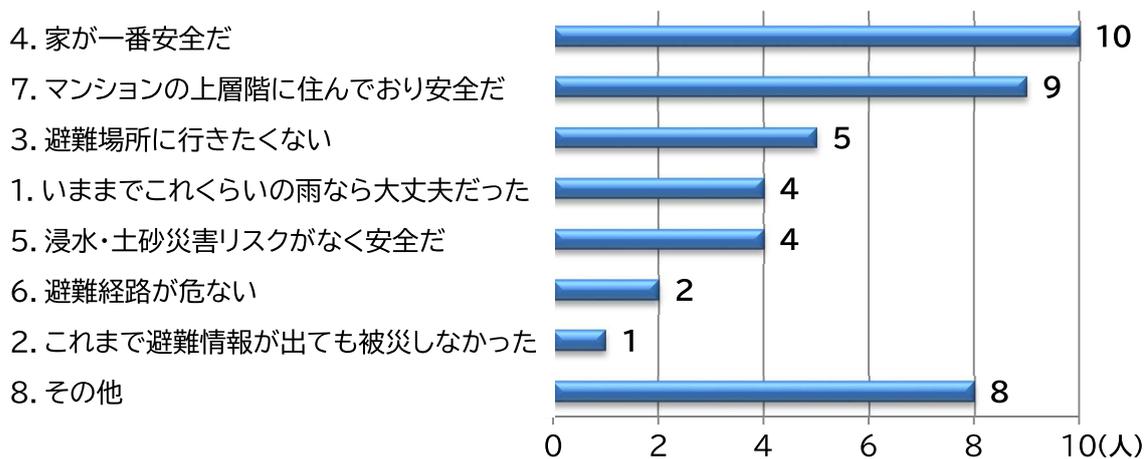
問9 問8で「1.指定された避難場所に避難する」「2.家の2階以上に垂直避難する」「3.避難場所にこだわらず安全な場所(親戚の家等)に避難する」と回答された方にお聞きします。避難を開始するタイミングについて、お考えに最も近いものを選んでください。(回答チェックはいくつでも n=217)

項目	人数(人)	割合(%)
1.警戒レベル3の「高齢者等避難」が発令された	41	18.9
2.警戒レベル4の「避難指示」が発令された	105	48.4
3.警戒レベル5の「緊急安全確保」が発令された	63	29.0
4.「大雨警報」「洪水警報」が発表された (警戒レベル3相当情報)	7	3.2
5.「土砂災害警戒情報」が発表された (警戒レベル4相当情報)	19	8.8
6.「大雨特別警報」が発表された (警戒レベル5相当情報)	21	9.7
7.自宅の周辺で浸水が発生するなど危険が迫ってきた	84	38.7
8.近所の人が始めた	50	23.0
9.その他	5	2.3



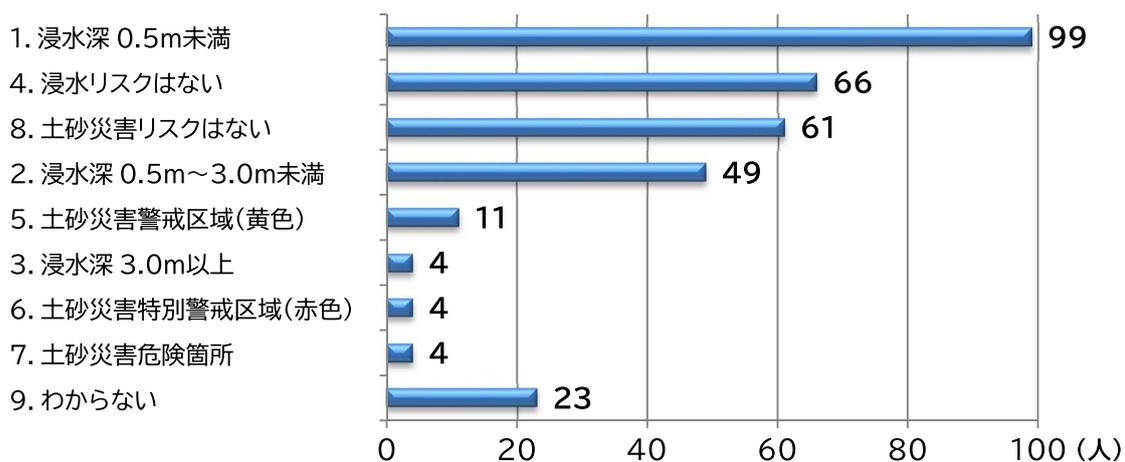
問 10 問8で「4. 避難しない」と回答された方にお聞きします。避難しない理由は何ですか。お考えに最も近いものを選んでください。(回答チェックはいくつでも n=23)

項 目	人数(人)	割合(%)
1. いままでこれくらいの雨なら大丈夫だった	4	17.4
2. これまで避難情報が出ても被災しなかった	1	4.3
3. 避難場所に行きたくない	5	21.7
4. 家が一番安全だ	10	43.5
5. 浸水・土砂災害リスクがなく安全だ	4	17.4
6. 避難経路が危ない	2	8.7
7. マンションの上層階に住んでおり安全だ	9	39.1
8. その他	8	34.8



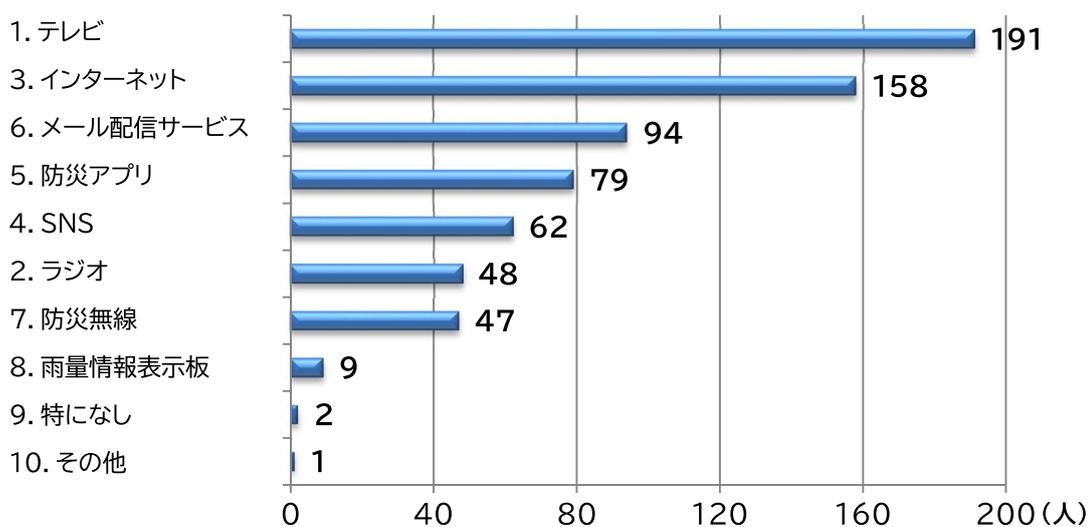
問 11 「滋賀県防災情報マップ」で、ご自宅の浸水リスク・土砂災害リスクをお調べいただき、ご回答をお願いします。ご自宅の浸水リスク、土砂災害リスクはどれに該当しますか。(回答チェックはいくつでも n=240)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 浸水リスクは浸水深 0.5m未満である(床下浸水)	99	41.3
2. 浸水リスクは浸水深 0.5m～3.0m未満である(床上浸水)	49	20.4
3. 浸水リスクは浸水深 3.0m以上である(2階浸水)	4	1.7
4. 浸水リスクはない	66	27.5
5. 土砂災害警戒区域(黄色)に該当する	11	4.6
6. 土砂災害特別警戒区域(赤色)に該当する	4	1.7
7. 土砂災害危険箇所に該当する	4	1.7
8. 土砂災害リスクはない	61	25.4
9. わからない	23	9.6



問 12 豪雨災害時の情報取得手段としてよく活用しているものを教えてください。  
 (回答チェックはいくつでも n=240)

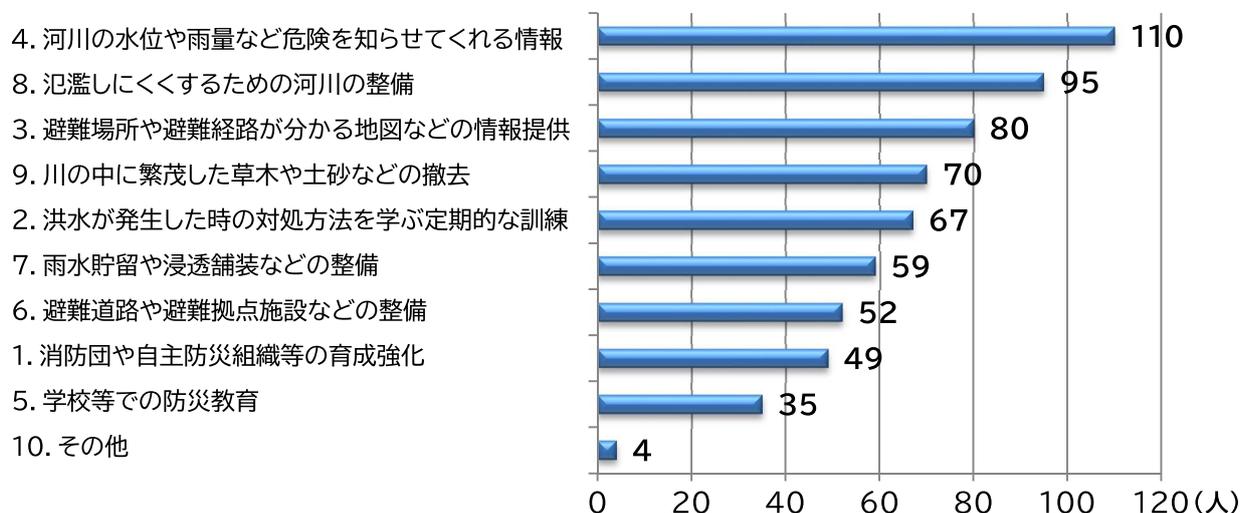
項 目	人数(人)	割合(%)
1. テレビ	191	79.6
2. ラジオ	48	20.0
3. インターネット(web サイト閲覧)	158	65.8
4. SNS(ツイッター、フェイスブック等)	62	25.8
5. 防災アプリ	79	32.9
6. メール配信サービス (しらがメール、市町のメール配信サービス)	94	39.2
7. 防災無線	47	19.6
8. 道路沿いなどにある雨量情報表示板	9	3.8
9. 特になし	2	0.8
10. その他	1	0.4



問 13 洪水から命や財産を守るため、あなたは県や市町の行政に対してどのような取り組みを望まれますか。重視して進めるべきと考えるものを選んでください。

(回答チェックは3つまで n=240)

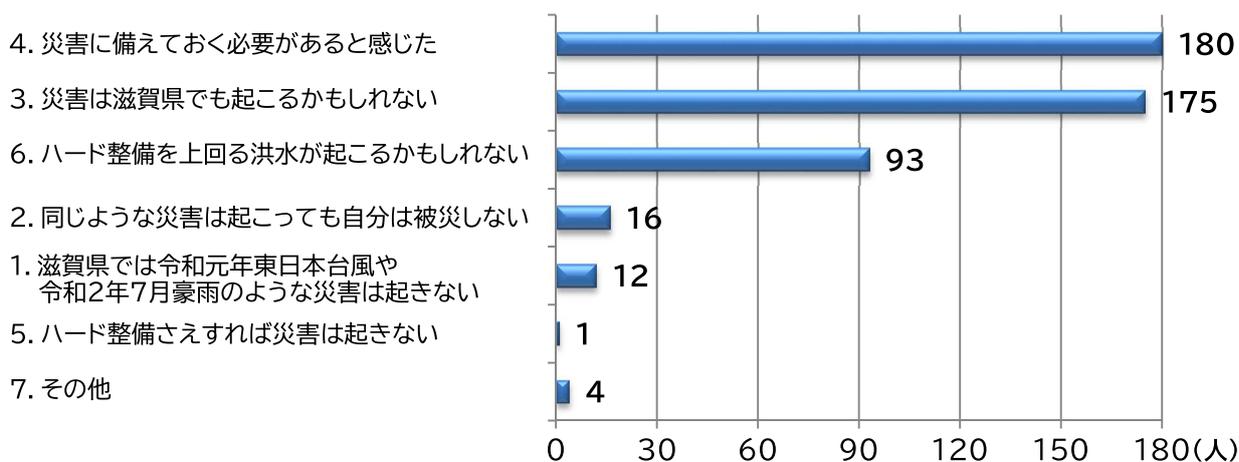
項目	人数(人)	割合(%)
1. 消防団や自主防災組織等の育成強化	49	20.4
2. 洪水が発生した時の対処方法を学ぶ定期的な訓練	67	27.9
3. 洪水が発生した時の避難場所や避難経路が分かる地図などの情報提供	80	33.3
4. 河川の水位や雨量など危険を知らせてくれる情報	110	45.8
5. 学校等での防災教育	35	14.6
6. 避難道路や避難拠点施設などの整備	52	21.7
7. 雨水貯留や浸透舗装など、雨水が川に流れ込む量を少なくするための整備	59	24.6
8. 氾濫しにくくするための河川の整備	95	39.6
9. 川の中に繁茂した草木や土砂などの撤去	70	29.2
10. その他	4	1.7



問 14 近年、全国各地で水害や土砂災害が発生しており、令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨でも、甚大な被害が生じました。これらの災害から感じることに  
 についてあなたのお考えに最も近いものを選んでください。

(回答チェックはいくつでも n=240)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 滋賀県では令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨のような災害は起きない	12	5.0
2. 同じような災害は起こっても自分は被災しない	16	6.7
3. 災害は滋賀県でも起こるかもしれない	175	72.9
4. 災害に備えておく必要がある	180	75.0
5. ハード整備さえすれば災害は起きない	1	0.4
6. ハード整備を上回る洪水が起こるかもしれない	93	38.8
7. その他	4	1.7



問 15 水害や土砂災害の被害を少なくするため、個人や地域ではどのようなことに留意する必要があると思いますか。ご意見がありましたら記入してください。(抜粋)

【個人で留意すること】

- 個人的には、ライフラインが止まっても生き延びられるだけの食糧等平時の準備が必要であると思う。あと避難場所が設定されてあるが、行くときに災害にあう場合もあるので、どちらが危険性が低いかよく考えておく必要がある。年配者等は危険性の高い住居に住んでいても自分のところは大丈夫だと思っている人が多いので、危険性の高い地域は避難訓練が必要だと思う。大雨の際に植木等流れやすいものは家の中に入れておいた方が良くと思う。それらが流れて二次災害になるおそれもあるから。
- 水害や土砂災害が起こったとき、どのような対処をすべきか、すぐに行動がおこせるように身につけておく。色々な場合を想定して、応用がすぐ出来るような訓練をしておく。
- 水、食料、防寒衣類、トイレ、懐中電灯、電池、スマホの充電等、日ごろからの備えを心掛ける。
- 起きることを前提にそれぞれの家庭で対応を考えておくことが必要。
- 高齢者家族と同居しており、日中は他の家族がいない事も多いのでその際の安全な避難体制を確保、事前にどうするか決めておく
- 最近の災害の傾向を見ていると、警報発出から決壊や土砂崩落までの時間が短くなっているように感じます。つまり避難する時間、逃げる時間が短いので逃げ遅れて被災するというケースが多く感じます。気象庁も地方の気象台も地方自治体も、最近では早めに気象警報や避難指示を発出しているようにも思いますが、住民も以前のように誰かが助けてくれるという感覚ではなく、これらの警報が発出されたら自発的に速やかに避難行動に入るということに心がけるべきだと思います。超高齢化社会となった現代では昼間に警報が出ても、高齢者に避難誘導するのもまた高齢者という状況ですので、高齢者であっても安全を確保しながら早め早めに自発的に避難行動をとるようにすべきだと思います。ここ最近の災害は少し昔の発生状況とは違うということを、住民も地域の自治会も理解しておくべきと考えます。
- 自分の住んでいる地域の危険箇所を事前によく調べておくことが必要です。過去にどのような災害が起こったかを調査することも大事です。
- 災害は忘れた頃にやってくるという言葉通りに、平生から非常事態に備える心構えとシミュレーションが大切だと思います。
- 豪雨の予兆がある場合は、色々な情報とニュース、メール配信などに注意を払い家族、隣人を守る行動につなげたいと思います
- 天気や雨量を常に確認、河川の情報も確認、河川付近の清掃
- 道や側溝などの清掃が大事だと思います。

### 【地域で留意すること】

- 日ごろから水害や土砂災害のあることを注意喚起し、市民もそうした事態になった時の行動を自治会ごとに把握して、想定訓練をしておくことも大事であるし、スマホをつかった連絡網の整備も必要である。
- 事前に地域で土のうを準備しておき、その使い方を学習・共有しておく。
- 自身はマンションに住んでいるので浸水に対する意識は戸建ての家に比べて低いと感じるが防火訓練だけでなく浸水、土砂災害などの訓練、準備は地域ぐるみでしていくほうがいいと思う
- 居住地域は水害は起こりにくいと思うが、いざという時のための訓練は最低でも年一回は実施すべき。来年度自治会役員の当番なので、その年度中に訓練を実施するつもりです。
- 普段から隣同士で助け合いの精神を持ち声掛けをしておく事が大切です。
- 自然災害はいつ何時起きるかわからないが近所のコミュニケーション網をしっかりとる事 絶えず色々な訓練実施等
- 危険箇所について自分の家族だけでなく、近所や子どもが通う学校や保育園などみんなで共有できた方がいいと思います。
- ネットやメールなどの自治体からの情報を受け取ることでできない高齢者などへの連絡手段の確保が重要。
- 高齢世帯や一人暮らし世帯もあるので、地域が協力して被害が少なく済むように声かけする。

### 【その他】

- ハザードマップを見やすいように工夫して欲しい。
- 水害、土砂災害の予防のために日頃から河川の整備清掃が大切だと思います。
- 気象環境が大きく変わり、過去の経験値が通用しないことを個人としても地域としても再認識すること。人間の認識が最も大きな障壁。啓蒙活動が欠かせない。
- 「だろう」から「かも知れない」という意識への切り替え教育が必要。
- 滋賀県では、これまで大きな災害が発生していないため災害に対する自主防災の訓練や自主防災組織・行動計画等ができていない自治体が多くあると感じる。滋賀県としても、各自治区内への積極的な呼びかけが必要と感じる。
- 災害が起こった時にどうするのか？どういう動きをしたらよいのかという具体的な動きの情報提供や説明会の実施。